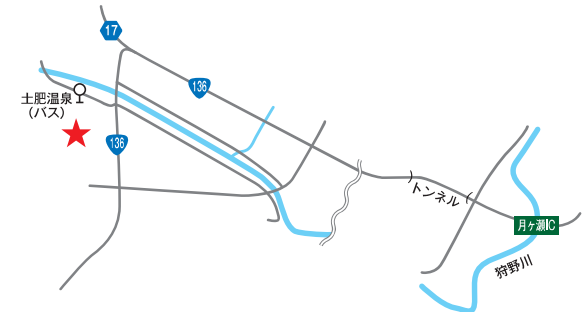


海と共に生きる 津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」 (伊豆市)



受賞者

伊豆市
東京大学生産技術研究所 今井研究室
日本工営都市空間株式会社
松原公園及び津波避難複合施設整備
検討委員会



アクセス

伊豆縦貫自動車道「月ヶ瀬IC」から
車で約23分
(国道136号を經由)

所在地

伊豆市土肥2648-2

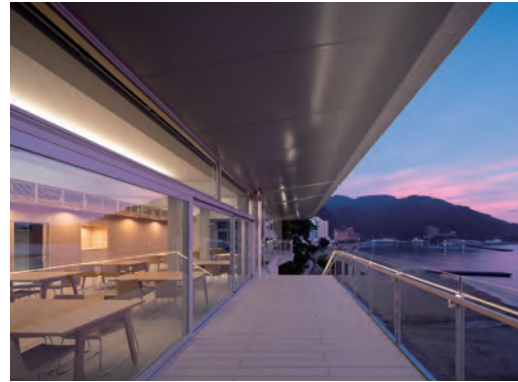


Photo by Hiroshi Ueda

全国初の津波災害特別警戒区域（オレンジゾーン）を指定した伊豆市土肥地域において、避難タワーに観光機能を融合させた、同じく全国初の津波避難複合施設が完成しました。防災機能に加え、日常的には展望台や観光施設としての役割を果たすことで、利用そのものを避難訓練とし、地域の方や観光客の防災意識を高める効果が期待されます。海と松原のあいだに建てたこの建築では、外周の階段を立体的に歩むことで、駿河湾と松原が生む壮大な景観を体験できます。建物自体は松原・海・夕日などの自然を映し込み、周辺環境と調和する外観としています。

地域の方と議論を重ねた松原公園の整備では、古くから土肥温泉の景勝地として受け継がれた「白砂青松の松林」の再生を試みています。松林として適切な密度になるよう間伐・剪定を行い、まちのどこからでも松を透かして海の水平線が見えるようにしています。そのうえで、松原を貫通する「抜け」をつくるように設計した建築は、背後に広がる海や山への「門」となり、自然と人工が融合した新たな松原の風景を創出しています。

審査委員より

これまでの無味乾燥な鉄骨造避難タワーに比べ、津波避難機能と観光機能を融合させることで、優れた建築デザインと相成り、高く評価できます。地域の象徴である松林とピロティ空間は、海岸景観へと誘うゲートとなり、素晴らしい景色を創出しています。

また、展望スペース、照明計画、サイン計画も優れており、松林保全と土肥桜植栽等のランドスケープも素晴らしい景観デザインとなっています。